

第1回 小学校再編に関する地域住民説明会（小松島小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月23日（月） 19時開始
- 場 所 : 小松島小学校 2階 生活室
- 参 加 者 : 20名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他9名
（事務局）
- 内 容 : 1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 教育委員会職員紹介
4. 配布資料確認
5. 説 明
① 小学校再編に向けて
② 小松島市立学校再編基本計画（案）
③ 学校施設の利活用
6. 質疑・応答（意見交換）
7. 閉 会

地域・保護者等から出された主な意見と回答

○どこを統合するというのは決まっているのではないか。

→（回答）

今教育委員会では、それらに対して案はまだ持っていない。これから御意見をいただき、「実施計画」の中で決めていく過程にある。

○本当に皆さんの意見を取り入れてくれるのか。

→（回答）

いろいろな地域の方からいろいろな御意見というのがあると思うが、子どもさんの将来のことを考えていくということで、まず、実態として11を「3程度」にするということで8つの地域では学校がなくなるという所が当然出てくることなので、各地域に学校を残して欲しいという御意見が、11校区だと多々出てくると思う。それに対して100%お答えすることは難しいということが結果としては出てこようかと思うが、そのような中で学校再編を前向きに進めていかなければいけないが、地域的な分に対してはどういった御意見がいただけるのかなあというところを前提に御意見等をいただけるとありがたい。

○3校にするというのは大体決まっているのか。

→ (回答)

3校というのはあくまでも「程度」表示。1つの学校で1つの学年を2クラス維持するためには3校程度必要となってくる。校数が増えると一つの学校規模は小さくなってしまうというようなことも踏まえて決めざるを得ないのかなあと思う。

○この資料は先生方が作った資料なのか。

→ (回答)

学校の先生だけでなく、行政の人間も教育委員会の中で、まずはいろいろ議論しながら作った。結果としてお示しをしたような基本的な方針の7項目の原案は教育委員会で作ったが、それに対して有識者の中でもいろいろな方々から御意見をいただいた。

○11 小学校のうち市が所有している土地は何箇所あるのか。

→ (回答)

大体市が直接持っている土地は多いのは確かだが、全部ではない。地域の方から借地をしているものも何校かはある。

○それはどこなのか。

→ (回答)

小松島小学校であったり、立江小学校であったり。何校かはある。

○廃校となった土地は返還するという事か。

→ (回答)

そのことについて決まっていない。学校がなくなった場合、市が買い取るとか、社会体育施設としての利用状況もあるので引き続き借りるのか、相談していくこととなる。

○小松島に現在住んでいる人の1軒1軒の実態調査をしたことがあるか、する予定は。

→ (回答)

全てを網羅して調査をする必要もあると思うが、委員会が全てを調査するというのは厳しいものがある。できるだけ意見を踏まえる中で、学校がどのようにあるべきか、ということを考えていきたいと思うが、そのような具体的な調査は考えてはいない。

○若い人が、小松島に安心していられるような市政でやっていかなければ、小松島に住む人が減ってってしまう。小松島に住もうと思えるような前向きな話にしていかないと。

→ (回答)

学校再編により新しい学校を作り、教育の充実を図っていくことにより、新しい学校にたくさん来ていただいて、ひいてはそれが小松島の活性化となるように。新しい学校と地域が

連携し、将来の小松島の地域作りにつなげていかなければならないと思っている。

○生徒数の少なくなっている学校から徐々に再編にかかり、2030年には3校ができあがっているのか。

→ (回答)

2030年までの再編完了に向けて動いていきたい。子どもの負担を考えると、少なくなっていく所から段階的にというのは考えていない。

○1クラス35名の根拠を教えてください。

→ (回答)

小学校の学校編成基準という国で決めているものがあり、同学年の児童で編成する学級は1学級上限が40人となっている。徳島県の教育委員会では上限を1学級35人としているので、36人になると2クラス(1クラス18人)になる。基本計画の中では1クラス18人以上は保てるような学級編成をして2クラスにしていきたいと考えている。

○まだはっきり校区については決まってないという話だが・・・校区で割るのか、地図上で割るのか、具体的なことをもう少し聞かせてもらえたら。

→ (回答)

「基本方針」にもあるが、「学校単位の再編」を考えている。最終的な学校の校数、場所、いつということは皆さんから御意見をいただいて、これから「実施計画(案)」の中で決めていく。

○有識者会議にはどのような方がいたのか。

→ (回答)

12名の委員。保育所・幼稚園の保護者代表の方、小学校PTA代表の方、学校の教員、公民館代表の方、民生児童委員も含めた地域の代表の方、市民からの公募、大学の先生。

○市政の中に入ってもう少し広く意見を聞いていく、という形はやらないのか。

→ (回答)

市政の中でという話になると役所の中の行政にはいろいろな施策がある。それができてなかったら学校再編はできないのか、というのでは少し観点が違うところがある。このような形で「基本計画(案)」をお示しさせていただいて、今のスケジュールでいうと来年度には「実施計画(案)」をお示しさせていただくことが、行政を含めた考え方になっていく。

○10年もかけなくても、2、3年でやれるのではないか。

→ (回答)

保護者・地域の方は今後どうなるのかという思いがあるので、そこに向けては「基本計画（案）」の考え方をまず御理解していただき、それから次の再編について考えていく。これからの子どもたちのことを考え、再編の必要性の理解をお願いしたい。

○「実施計画（案）」が出たら、またこういう会を開くのか。

→（回答）

来年、「実施計画（案）」ができれば、説明会を開催していきたいと考えている。

○3年ほど前に5校5園というのがあって、どことどこが一緒になりますというのがあったが、それはなくなってしまった。そのことについての保護者に対する説明がなかった。子どもの人数が減り、3校にするというのはやむを得ない話で仕方ない、というのは多分みんな思っているが、なくなった理由もお聞きしたいと思う。

→（回答）

平成24年8月に再編計画を作っていて、その時は将来の子どもの人数の予測など具体的な数字を持っていなかった。昨年に有識者会議で新しく改めて学校再編を議論していく中で、メディアにも前の学校再編についてした時に将来の子どもの数も置いてなくてしていたのか、ということは叩かれた。ここ何年間かの中に各市町村の人口の推移について、議論として出始めた。そこで改めて学校再編をするにあたっては、児童数の推計をする中で学校再編の数とか、クラス数の確保をやりたいなあというのがあった。そのようなことを踏まえて原案づくりの為に有識者会議でいろいろな方から「基本計画（案）」に御意見をいただいて現在に至っている。経緯やこれから先というのはもう少し踏み込んで、いろいろな形で速やかに出せる情報は出して、意見交換なりをしていきたい。

○有識者会議を傍聴させていただいたが、その時の資料で、校区をどのようにまとめたら、どのようなクラス編成になるのか、何人ぐらいになるのか、というのがあった。その資料が今日ないのは何故か。

→（回答）

有識者会議の中で委員の中から学校単位でどことどこが一緒になったらどうなるのかという意見があったので、3校程度ならこういう考え方ができますよという形でお出しした。一般市民の方に議論していただく中で、あのような議論はもう少し先にあるのではないかと思う。今回の説明会においては、その有識者会議を踏まえてできあがった状態でこのような形になっているというのをまず、お示しをさせていただいた。再編についてはどこどこをいつということが出てくると思うが、どういった形になるか分からないので、敢えてお出ししていなかった。

○市民の方からの意見や要望を吸い上げていくと思うが、例えばA小学校とB小学校が、

平成 42 年に合併した段階でここって1クラスしか結局できないのだなというのが分かれば、市民の方も再編にはすごく納得していくと思う。その辺のイメージが今出ている資料ではわかりにくい。そのような資料が次回あった方が、目で見えて分かるような資料をお配りしてもいいのではと思う。

○今 20 代から 30 代の、10 年後に学校が再編された時に通う可能性のある年代の人にアンケートを取ってもらいたいと思う。個別にまわるのは大変だと思うのでインターネットを使って頂いてホームページなりで、率直な意見は収集しやすいと思うのでそういう意見は取っていただきたいと思う。